

白糠区での酸性雨調査についてⅡ

古本 浩望・渡辺 康弘

1.はじめに

北海道演習林白糠区では、酸性雨の観測を開始して2年目になり、前回同様に平成6年度に測定した結果を報告する。

2.調査方法

採取場所は、白糠研究管理棟前の芝生の上に固定台を設置し、降雨前にレインゴーランドを置いて、雨水を回収して測定を行った。採取した雨水のPH濃度及び導伝率（EC）を各カップについて3回測定し、その平均をカップのPH濃度及び導伝率（EC）とし、気温が氷点下にならない5月から10月までの降雨を回収した結果である。

3.結果（および考察）

表-1～3は、5月から10月まで測定結果の1～3カップ目の値を示したものである。またこれをグラフで示すと図-1～3の様になった。7月は、PH濃度が4以下と最も低く、それに比べて導伝率は50以上と高い、また8月、9月、10月PH濃度が上がっていくのに比べ導伝率は下がっている。平成5年度とはまったく逆の傾向を示している。今後は、雨量とPH濃度また、雨の降る時期との関係も調査を必要と考えられる。

表-1 北海道演習林白糠苗畑での酸性雨測定結果(1カップ目)

月 PH・EC	5			6			7			8			9			10		
	最低	平均	最高															
PH	4.0	4.7	5.4	3.6	4.0	4.5	3.2	3.5	3.9	3.4	3.9	4.5	3.5	4.4	5.3	4.2	4.5	4.8
EC	36	64	93	14	47	80	55	79	104	32	58	84	15	52	89	23	32	41

表-2 北海道演習林白糠苗畑での酸性雨測定結果(2カップ目)

月 PH・EC	5			6			7			8			9			10		
	最低	平均	最高															
PH	3.8	4.3	4.8	3.9	4.1	4.4	3.4	3.6	3.8	3.3	3.7	4.1	3.4	4.0	4.7	4.4	4.4	4.5
EC	16	43	71	12	21	31	44	66	88	20	41	62	6	34	63	9	17	26

表-3 北海道演習林白糠苗畑での酸性雨測定結果(3カップ目)

月 PH・EC	5			6			7			8			9			10		
	最低	平均	最高															
PH	3.9	4.1	4.4	3.9	4.1	4.3	3.5	3.7	4.0	3.5	3.6	3.8	3.5	4.1	4.7	4.2	4.3	4.5
EC	23	38	54	14	23	32	44	58	73	26	33	40	6	29	53	5	25	46

図-1 月別酸性雨・導電率(EC)の変化(1カップ目)

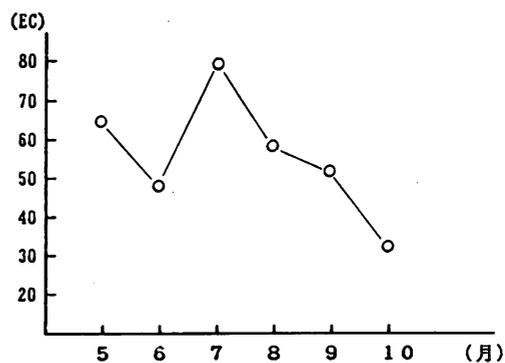
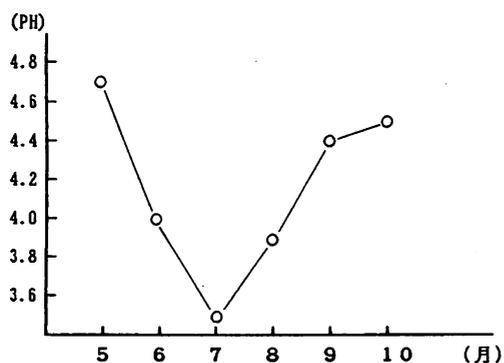


図-2 月別酸性雨・導電率 (EC) の変化 (2カップ目)

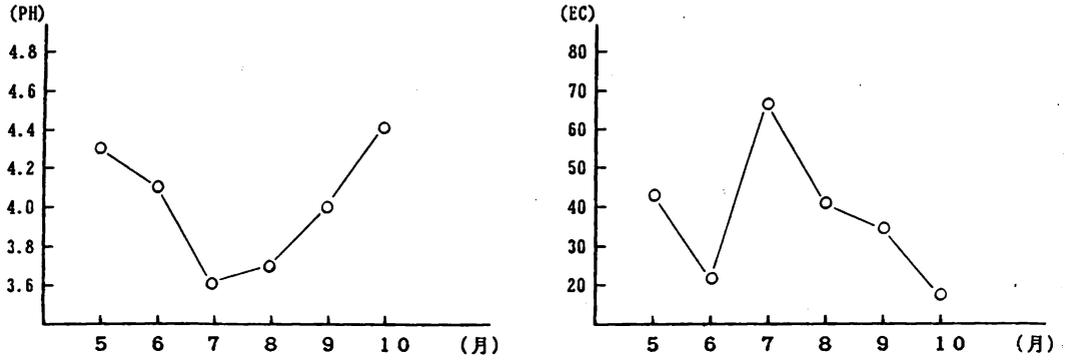


図-3 月別酸性雨・導電率 (EC) の変化 (3カップ目)

